

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇1月26日～

先週末の日銀金融政策決定会合では政策金利は据え置きとなり、特に大きなサプライズはありませんでしたが長期金利がどんどん上昇してきており、この動きが止まらなければマーケットにも影響が出てきます。

植田・日銀総裁も長期金利の上昇のスピードが早いことを警戒しています。

日銀が金利を据え置いたことで円安が進むことを警戒したためか米金融当局がニューヨーク市場で為替介入の準備段階に当たるレートチェックを実施したようです。

夜中に大きくドル／円チャートが下げているのが確認できます。

10分程度の時間で急激に下げたことから介入かと一時騒然となりましたが、介入の準備に向けて日米ともに動き出したようです。

日本単独でなく、日米の協調介入となれば円安の動きに歯止めがかかる可能性があります。

このまま円安が止まらないと米国も困るところまできているということです。

ただし、レートで見ると155円台までの下落なので、これは昨年のクリスマスくらいの水準です。

このまま昨年12月安値の154円台あたりで下げ止まれば円高リスクはおさまってくる可能性もあります。為替だけでなく、債券や株などの市場が不安定になってくるかどうか也很重要です。

株価が下落したり、債券市場が不安定になるとリスク回避的な動きが強まるかもしれません。

そして、海外でもマーケットを揺るがすニュースが次々として入ってきています。

グリーンランドをめぐる、米国が欧州に関税をかけるという話はなくなりましたが今後もグリーンランド関連の動きには注意がいります。

トランプ大統領は欧州が米国債を売る場合は、大規模な報復と言ってけん制しています。

さらに、キューバの政権転覆を米国が狙っているという話も入ってきています。

今週は米国でFOMCがあります。FRBの人事についてもニュースがあるかもしれません。

また、日本では衆議院が解散となり、2月8日投開票となります。

今回の選挙は高市首相人気で自民が過半数を取るという予想もあれば、野党が議席を伸ばし、まさかの政権交代を予想する人もいます。

食料品に対する消費税を2年間ゼロにするという話が出ていますが、財源不安から日本売りが起こるリスクもあります。

英国のトラス・ショックのように円売り、日本国債売り、日本株売りが同時に起こるトリプル安になるということです。すでに債券市場が不安定なだけに心配です。

商品市場では、地政学リスクの影響もあり、金と銀の上昇が続いています。

最近の相場は急落後に急激に戻すような動きも多く、短時間での乱高下にも注意したいです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

先週末は日本時間が終わった夕方くらいから円高が進行し、夜間に大きく下げ、マーケットは155円台後半で終わっています。夕方には159円台前半だったドル/円レートが半日で3.5円以上も下げています。週明け早々に下落がおさまるかどうかポイントになりそうです。

下値は155.5円を割り込むと154.3円あたりが下値のメドとなります。

ここも割り込むと週足でも崩れてくるリスクがあり、152円台あたりまで下落するかもしれません。

上値は156.6円を超えてくると157.3円あたりがターゲットになります。

ここも超えてくると円高リスクは落ち着いてきそうです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週末のドル/円の急落でマーケットが終わる前に下げているペアが多いですが日足や週足で見ると上昇トレンドは継続しているペアも多いです。

週明けに下げがおさまれば、再び上昇してくる可能性もあります。

ドルが売られたのは円に対してだけでなく、欧州通貨やオセアニア通貨に対しても売られています。ドル安の影響を見るには、各通貨とドルとの強弱関係も確認した方がよさそうです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、1月東京都都区部消費者物価指数、12月鉱工業生産などがあります。

米国では、11月耐久財受注、11月ケース・シラー米住宅価格指数、1月リッチモンド連銀製造業指数、1月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、前週分新規失業保険申請件数、11月貿易収支、11月製造業新規受注、12月卸売物価指数、1月シカゴ購買部協会景気指数などの発表があります。

欧州では、ドイツとユーロ圏で10-12月期GDP(速報値)、ドイツで1月IFO企業景況感指数、1月消費者物価指数などがあります。

ほかには、オーストラリアで12月消費者物価指数、カナダ、南アフリカで政策金利、カナダで11月GDPの発表などがあります。